

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 登録実用新案公報(U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3160368号
(U3160368)

(45) 発行日 平成22年6月24日(2010.6.24)

(24) 登録日 平成22年6月2日(2010.6.2)

(51) Int.Cl.

B 6 5 D 85/30 (2006.01)

F 1

B 6 5 D 85/30 1 O 1

評価書の請求 未請求 請求項の数 1 O L (全 5 頁)

(21) 出願番号 実願2010-1549 (U2010-1549)
(22) 出願日 平成22年3月11日(2010.3.11)(73) 実用新案権者 505238979
株式会社やまみ
広島県三原市沼田西町小原字袖掛73番地
5
(74) 代理人 100074055
弁理士 三原 靖雄
(72) 考案者 山名 清
広島県三原市沼田西町小原字袖掛73番地
5 株式会社やまみ内

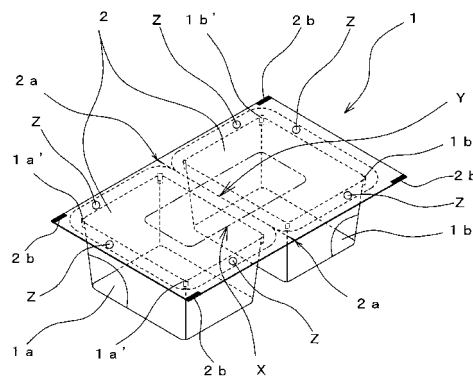
(54) 【考案の名称】 おぼろ豆腐容器

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】食べ易い大きさに形成し、且つ、複数個に分割した収納部を有する豆腐容器を一体形成し、且つ、容器表面部に切り込み線を設けて、切り取り分離可能に設けたおぼろ豆腐容器を提供する。

【解決手段】二つの収納部を有する容器を一体に形成し、該収納部にはそれぞれ約170g程度の内容量を収納する収納部に形成し、各収納部の周囲には、該容器の表面には、同じく合成樹脂製の被覆シートを剥離可能に一体溶着して設け、該被覆シートに、商標、商品説明等の表示をすると共に、二つの容器の表面部境界に切り込み線を設け、切り取り分離可能に設けた事の特徴とする。

【選択図】図1



【実用新案登録請求の範囲】**【請求項 1】**

熱可塑性樹脂板を真空成形して成る食品容器において、二つの収納部（１ａ）（１ｂ）を有する容器（１）を一体に形成し、該収納部（１ａ）（１ｂ）にはそれぞれ約１７０ｇ程度の容量を収納する収納部に形成し、各収納部の周囲には、該容器（１）の表面には、同じく合成樹脂製の被覆シート（２）を剥離可能に一体溶着して設け、該被覆シート（２）に、商標、商品説明等の表示（Ｘ）をすると共に、二つの容器の表面部境界に切り込み線（Ｙ）を設け、切り取り分離可能に設けた事の特徴とするおぼろ豆腐容器。

【考案の詳細な説明】

10

【技術分野】**【０００１】**

この考案は、おぼろ豆腐容器に関するものである。

【背景技術】**【０００２】**

従来、豆腐の容器は単に輸送や店頭等に陳列する為の容器であって、食べる前に加熱する為には、容器から取り出して皿等に載せて電子レンジで加熱するか、オーブントースター等で加熱していた。

【０００３】

又、食べ易い大きさにして、複数個を容器内に並べると、輸送途中の衝撃や振動等で豆腐の形状が崩れる恐れがあった。

20

【０００４】

従って、食べ易い大きさに形成し、且つ、複数個に分割した豆腐容器を一体形成し、且つ、容器表面部に切り込み線を設けて、切り取り分離可能に設け、且つ、表面シート部に商標、商品説明等の表示を設けたおぼろ豆腐容器の開発が望まれている。

【先行技術文献】**【特許文献】****【０００５】**

これまでに出版されている豆腐容器に関する特許文献を参考の為、紹介する（特許文献１～３参照）。

30

【特許文献１】登録実用新案第３０１０１３６号

【特許文献２】登録実用新案第３１０２７１３号

【特許文献３】実用新案公開平６－０５３４９０

【考案の概要】**【考案が解決しようとする課題】****【０００６】**

そこで、上記課題を解決する為に、この考案は食べ易い大きさに形成し、且つ、複数個に分割した収納部を有する豆腐容器を一体形成し、且つ、容器表面部に切り込み線を設けて、切り取り分離可能に設け、且つ、表面シート部に商標、商品説明等の表示を設けたおぼろ豆腐容器を開発・提供する事にある。

40

【課題を解決するための手段】**【０００７】**

この課題を解決するための手段として、二つの収納部を有する容器を一体に形成し、該収納部にはそれぞれ約１７０ｇ程度の容量を収納する収納部に形成し、各収納部の周囲には、該容器の表面には、同じく合成樹脂製の被覆シートを剥離可能に一体溶着して設け、該被覆シートに、商標、商品説明等の表示をすると共に、二つの容器の表面部境界に切り込み線を設け、切り取り分離可能に設けた事の特徴とするものである。

【考案の効果】**【０００８】**

この考案の効果として、二つの収納部を有する容器を一体に形成し、該収納部にはそ

50

れぞれ約 170 g 程度の内容量を収納する収納部に形成し、各収納部の周囲には、該容器の表面には、同じく合成樹脂製の被覆シートを剥離可能に一体溶着して設け、該被覆シートに、商標、商品説明等の表示をすると共に、二つの容器の表面部境界に切り込み線を設け、切り取り分離可能に設けた事で、豆腐の品質・賞味期限を最大限に維持確保可能とし、且つ、安心、安全、衛生的で、表面被覆シートの表示を一枚に一体化して安価にする等、極めて有益なる効果を奏するものである。

【図面の簡単な説明】

【0009】

【図1】この考案の一実施例を示し、おぼろ豆腐容器全体の斜視図である。

【図2】この考案の使用例を示し、おぼろ豆腐容器分割前時及び分割後時の断面図である

10

。【考案を実施するための形態】

【0010】

考案を実施するための形態として、熱可塑性樹脂板を真空成形して成る食品容器において、二つの収納部(1a)(1b)を有する容器(1)を一体に形成し、該収納部(1a)(1b)にはそれぞれ約170g程度の内容量を収納する収納部に形成し、各収納部の周囲には、該容器(1)の表面には、同じく合成樹脂製の被覆シート(2)を剥離可能に一体溶着して設け、該被覆シート(2)に、商標、商品説明等の表示(X)をすると共に、二つの容器の表面部境界に切り込み線(Y)を設け、切り取り分離可能に設けた事を特徴とするおぼろ豆腐容器から構成される。

20

【実施例1】

【0011】

そこで、この考案の一実施例を図1に基づいて詳述すると、容器(1)の材質はPP(合成樹脂)製で、容器の表面縁部の寸法・形状は横幅約107mm×長さ約163mmの矩形状で、左右に二分割された収納部(1a)(1b)の寸法・形状は横幅約91mm×長さ約66mm×高さ約43mmのほぼ直形状(内容量:170g)にそれぞれ設け、且つ、各収納部(1a)(1b)の上部角部には容器重なり防止(スタック)(1a')(1a')(1a')(1a'),(1b')(1b')(1b')(1b')をそれぞれ設け、且つ、容器の表面縁部には容器本体縁部の大きさよりやや大きめの寸法の熱可塑性ポリエチレン(合成樹脂)製の被覆シート(2)を溶着(Z)によって被覆し、被覆シート(2)を剥がし易く設けている。

30

【0012】

そして、被覆シート(2)の表面部には、商標、商品説明等を表示(X)し、且つ、容器表面の境界部には分割する為の切り込み線(Y)と、切り込み線上の上下両端には、被覆シートを簡単に切り易くする為の切り込み部(2a)(2a)をそれぞれ設け、更に、連続生産し易くする為に予めフィルムに黒白矩形状マーク(光電管マーク)(2b)(2b)(2b)を印刷している。

【0013】

図2(A)(B)は使用状態図で、おぼろ豆腐を容器内に収納した時の、それぞれ断面図を示し、(A)は2分割する前の状態を表し、(B)は2分割後の状態を表したものである。

40

【産業上の利用可能性】

【0014】

この考案のおぼろ豆腐容器は、食べ易い大きさに形成し、且つ、複数個に分割した収納部を有する豆腐容器を一体形成し、且つ、容器表面部に切り込み線を設けて、切り取り分離可能に設け、且つ、表面シート部に商標、商品説明等の表示を設けた事で、多くの食品販売市場に寄与する為、産業上の利用可能性を有する。

【符号の説明】

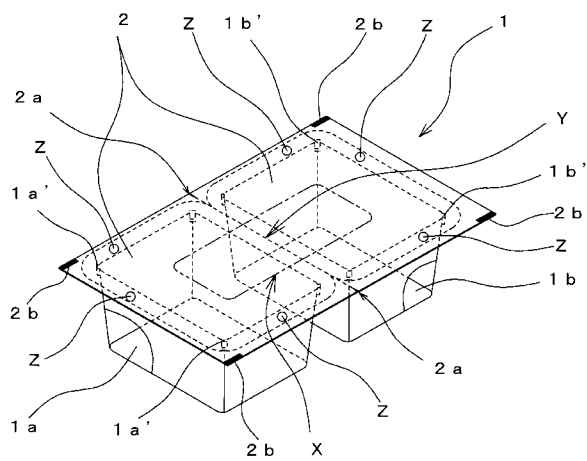
【0015】

1 容器

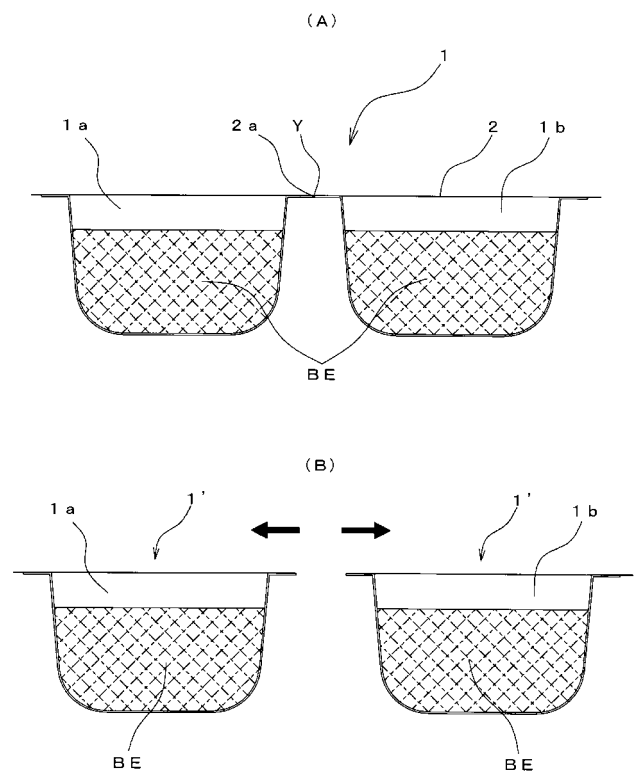
50

- 1' 分離した容器
- 1 a 収納部
- 1 a' 空気抜き用溝
- 1 b 収納部
- 1 b' 空気抜き用溝
- 2 被覆シート
- 2 a 切り込み部
- 2 b 黒色矩形状マーク
- X 表示
- Y 切り込み線
- Z 溶着部
- B E 豆腐

【図 1】



【図 2】



【手続補正書】

【提出日】平成22年4月8日(2010.4.8)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】実用新案登録請求の範囲

【補正対象項目名】請求項 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 1】

熱可塑性樹脂板を真空成形して成る食品容器において、二つの収納部（１ a）（１ b）を有する容器（１）を一体に形成し、該収納部（１ a）（１ b）にはそれぞれ約 170 g 程度の内容量を収納する収納部に形成し、各収納部の周囲には、該容器（１）の表面には、同じく合成樹脂製の被覆シート（２）を剥離可能に一体溶着して設け、該被覆シート（２）に、商標、商品説明の表示（X）をすると共に、二つの容器の表面部境界に切り込み線（Y）を設け、切り取り分離可能に設けた事の特徴とするおぼろ豆腐容器。